第12講　幕政の安定と文治政治
PART2 文治政治の展開

Chapter 1　正徳の政治

目標
「正徳の政治」で将軍権威の強化が主目的となったのはなぜだろう？
「正徳の政治」の失敗部分について知ろう。

1　正徳の政治とは？

①**正徳の政治〔正徳の治〕（1709 ~** 16年）

５代将軍綱吉の死後，

養子となっていた甥の甲府藩主徳川綱豊が**６代将軍**〔1　　　〕として

将軍に就任。子の**７代将軍**〔2　　　〕を含めた治世で小改革が行われた。

※元禄時代に絶大な権力を誇った側用人柳沢吉保は退けられた。

②主導者

京学の**朱子学者**である**侍講**〔3　　　〕と**側用人間部詮房**が主導。

将軍の地位・権威の強化と経済復興を主目的とした。

※７代将軍家継と２歳の内親王との婚約もまとめる。

また，一目で序列が明らかになるように衣服の制度を整え，

家格や身分秩序を重視した。

新井白石

2　正徳の政治の政策と結果

①政策

1709年　生類憐みの令を廃止

1710年　〔4　　　〕の創設

※皇統保持のため伏見宮・桂宮・有栖川宮に追加して４宮家とし，朝廷と融和。

宝永小判〔乾字金〕の鋳造→勘定奉行荻原重秀による

※金の含有率を慶長小判と同様に戻したが，

目方を半分近く落としたので混乱を招いた。

1711年　**朝鮮通信使の待遇簡素化**

※さらに「日本国**大君**」の号を「**日本国王**」と改めさせたが，
対馬藩の朱子学者**雨森芳洲**（木下順庵門下で新井白石の弟弟子）は猛反対した。

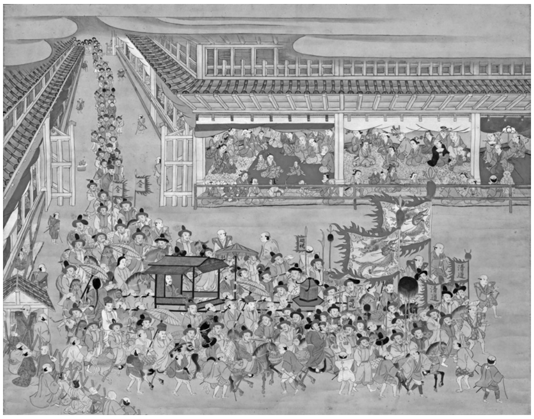
1712 年　荻原重秀を罷免
６代将軍家宣の死→３歳の７代将軍家継が将軍就任

1714 年　〔5　　　　　　　　　　〕の鋳造
※質・量ともに慶長小判と同様に戻し物価騰貴を抑えようとしたが，
再度の貨幣改鋳はかえって混乱を招き失敗した。

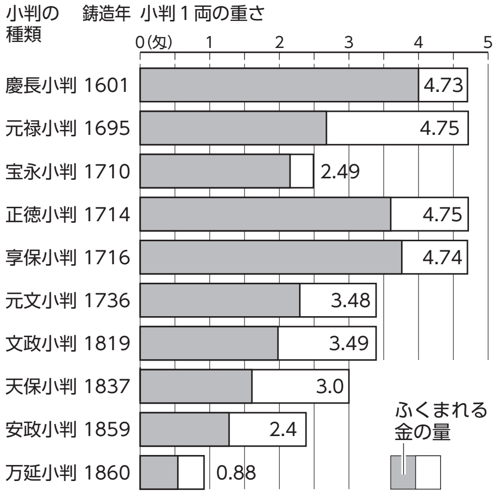
1715 年　海舶互市新例〔長崎新令・正徳新令〕
※銅の輸出能力相応に長崎貿易を制限し，金・銀流出を防止。
※清は年間 30 隻・銀 6000 貫，オランダは年間２隻・銀 2000 貫。

1716 年　７代将軍家継の死
※７歳で子はおらず，将軍家の本家は途絶える。

②結果
A　元禄時代に比べれば幕政の一時的安定をもたらす
B　儒教的理想主義に走り現実と合致せず
C　思うような成果が得られないまま**側近政治が譜代・旗本の反発を買う**



朝鮮通信使



金貨の成分比の推移

まとめ
年齢的にも個人的資質ではなく将軍そのものを権威づける必要があった。
「正徳の政治」では，理想と現実が合致しない部分も多かった。

Chapter 2　幕藩財政の窮乏

目標
幕藩財政窮乏の本質的要因について知ろう。
諸物価が高騰すると武士が特に困ったのはなぜだろう？

1　幕藩財政窮乏の本質的要因

①農村〔地方〕における商業的農業の進展

商品貨幣経済に巻き込まれ，**農民の階層分化**が進行。

「1町・10石の本百姓体制」が動揺し，**年貢・諸役の確保が不安定**になる。

②都市〔町方〕における消費生活の拡大

商品貨幣経済の発達とともに生活水準が上昇し，

諸物価の高騰と米価の相対的低下が進行。

年貢米の換金により消費物資を得ている武士は，特に大打撃。

2　財政難の具体例

①幕府の財政難

A　収入の減少

あ　主要鉱山からの金銀産出量の減少

い　鎖国後の貿易利潤の減少

B　支出の増大

あ　明暦の大火（1657年）後の江戸城・市街の再建費

い　５代将軍綱吉の寺社造営・修築費

江戸のにぎわい

C　対策

あ　**借り上げ〔借知〕**　→俸禄の半分しか支給しない場合は半知という

い　**年貢の増徴**　→新田開発や殖産興業などを含む

う　商品作物生産の把握→特産物への運上賦課や専売制の実施など

え　三都を中心とする御用商人への御用金・献金を賦課

お　［1　　　　　　　］による出目（悪循環を生む）

D　消極的対応策の限界

積極的な**幕政改革**が必要となる。

②藩の財政難

A　収入の減少と支出の増大

貢租収入の増加が見込みにくい反面で参勤交代やお手伝い普請の費用捻出に苦労。

B　対策

借り上げ〔借知〕，**年貢の増徴**，商品作物生産の把握，

御用商人への御用金・献金賦課，**大名貸からの借金**，

〔2　　　　〕の発行（悪循環を生む）。

C　消極的対応策の限界

積極的な**藩政改革**が必要となる。

藩札

3　財政難の結果・現状

①農民の負担増加・窮乏

農村人口の激減と〔3　　　　　　　　〕**の増加**を招く。

特に大都市周辺では都市への人口流出が続いた。

※自然災害・**飢饉**・疫病などの理由で簡単に生活破壊に直面。

②町人の窮乏

都市人口の激増と**打ちこわしの増加**を招く。

無宿人・浮浪人が発生し，治安も悪化。

※自然災害・**火災**・疫病・**物価高騰**などの理由で簡単に生活破壊に直面。

③武士の窮乏

軍事・立法・行政・司法を独占する

政治家・役人（＝純粋な消費者）として存在することから，**物価高騰**が直撃。

※**内職**への従事，武具の売却・質入れによる**商人からの借金**，

養子縁組による**武士身分の実質的売却**など。

まとめ

幕藩財政窮乏の本質的要因は，商品貨幣経済の発達と

その結果としての階層分化に対処できないしくみのあり方だった。

武士は都市の消費者として存在していたので，物価の高騰は大打撃だった。

第12講　PART 2　確認問題

1　５代将軍徳川綱吉の死後，６代将軍に就任したのはだれか。

①　徳川家継　　②　徳川家綱
③　徳川家宣　　④　徳川家重

2　正徳の政治を新井白石とともに主導した側用人はだれか。

①　荻原重秀　　②　間部詮房
③　柳沢吉保　　④　雨森芳洲

3　正徳の政治において，幕府と天皇家との結びつきを深めた出来事はどれか。

①　朝廷儀式の復興　　②　尊号一件
③　禁裏御料の増加　　④　閑院宮家の創設

4　朝鮮通信使の待遇簡素化に反対した対馬藩の朱子学者はだれか。

①　雨森芳洲　　②　熊沢蕃山
③　山崎闇斎　　④　木下順庵

5　幕藩財政窮乏の本質的要因の一つとして，都市に見られた現象はどれか。

①　諸物価の高騰，米価の相対的低下
②　諸物価の高騰，米価の相対的上昇
③　諸物価の暴落，米価の相対的低下
④　諸物価の暴落，米価の相対的上昇

6 幕府の財政難を招くきっかけともなった 1657 年の出来事はどれか。

① 寛永の飢饉　② 明暦の大火
③ 赤穂事件　④ 富士山の大噴火

7 富裕な商人による大名への貸し付けを何というか。

① 借り上げ　② 半知
③ 御家人株　④ 大名貸

8 町人の窮乏の直接的な要因として**あてはまらないもの**はどれか。

① 疫病　② 物価高騰
③ 飢饉　④ 火災

第12講　PART 2　確認問題 解答

1 解答：③

①の**徳川家継**は７代将軍，②の徳川家綱は４代将軍，④の徳川家重は９代将軍。

2 解答：②

①の荻原重秀は宝永小判〔乾字金〕を鋳造した勘定奉行，③の柳沢吉保は元禄時代の側用人，④の雨森芳洲は対馬藩の朱子学者。

3 解答：④

皇統保持のため伏見宮・桂宮・有栖川宮に追加して４宮家とし，朝廷と融和した。

4 解答：①

雨森芳洲は木下順庵門下で新井白石の弟弟子。②の熊沢蕃山は岡山藩の家老に登用された陽明学者，③の山崎闇斎は会津藩に招かれた朱子学者，④の木下順庵は加賀藩に招かれた朱子学者。

5 解答：①

都市では，商品貨幣経済の発達とともに生活水準が上昇し，諸物価の高騰と米価の相対的低下が進行した。

6 解答：②

明暦の大火で，江戸城天守閣を含む江戸市中の約 55％が焼かれたため，江戸城・市街の再建費として幕府の支出が増大した。

7 解答：④

①の**借り上げ〔借知〕**は，大名が家臣の俸禄・知行を借り上げたこと。②の半知は，借り上げ〔借知〕のうち，俸禄の半分しか支給しない場合をいう。③の御家人株は，御家人の家格や付属する役職・俸禄が株と化したもの。

8 解答：③

飢饉は，農民の直接的な貧窮要因にあてはまる。